

# からはじめる会」幹部が激白



# 改革は 当ただ!



ノンフィクションライター  
**藤吉雅春**

「もっと選挙民にわかりやすいものを」テレビとは正反対の発言に  
会のメンバーは落胆。いつの間にか「維新の会」の名前もパクられた

昨年の大阪W選挙は大勝利

松井一郎府知事

4年前、「教育非常事態宣言」をした橋下氏

神谷宗幣氏（円内）

橋下徹大阪市長率いる「大阪維新の会」の目玉、教育改革について議論が行われた一月の「大阪府市統合本部会議」のことだ。堂々巡りの議論の中で、「ちょっと言わせて下さい」と、意を決したかのように手を挙げたのは、小河勝氏だった。「小河式ブリント」で知られる彼は、「百ます計算」の陰山英男氏とともに、橋下氏に請われて大阪府教育委員に任命された教育者である。

「全然わかつていらっしゃらないんじゃないですか」

六十七歳の小河氏の言葉は、橋下氏や松井一郎知事、顧問の堺屋太一氏に向かっていた。維新の会が主張する「府立高校の学区撤廃」について、小河氏はこう言ったのだ。

「来年四月からスタートすると言つても、今年四月に中学三年になる子たちをその路線で進路指導しなければならないんですよ。ということは、今の時点で新しい制度ができあがつていな

ければならない。二、三月には来年度の進路指導や教務主任などの人事構成も決めなければならない。でも、この話 자체、まだ是非も含め、論議も何もできていないじゃないですか」

それでも再び不毛なまでに「なぜできないのか」、「そんな事務的なこと、すぐできるはず」と、繰り返される。学区撤廃となれば、高校の評価基準を始め、仕組みから変えなければならぬ。なぜ慌てて制度を先に変えるのか、混乱するの

は確実だというのだ。

後述するが、大胆な競争主義を導入したサッチャードの教育改革は、のちのブレア政権によって修正されている。ドロップアウトする子供を大量に生みかねない改革であり、無氣力で孤立した若者が増えればどうなるか。

## テレビを見て橋下氏に手紙を

「クソ教育委員会!」などの過激な発言で教育改革を主張し続ける橋下徹大阪市長。なぜ橋下氏は急ぐのか。三年前、橋下氏と教育維新

維新の会で教育改革案を練った市議は、「(教育の)格差を生んでもよい」と新聞で語っている。その市議は取材に応じてもらえたかった。そこで見つけたのが「大阪教育維新を市町村からはじめる会」なる組織である。発足時の会長は、橋下徹知事(当時)。橋下氏の理念を聞くべ

く、事務局長を務めた神谷宗幣・吹田市市議を訪ねた。ところが――。神谷氏の話を聞くうちに、私は目が点になるのである。

「〇八年、橋下知事がテレビで『大阪の教育を変える』とおっしゃるのを見て、僕は知事に手紙を書いたんです。教育は一人で変えよう